

地域の文化・伝統に愛着をもち、生徒の探求心を深める総合的な学習の時間のあり方  
～第2学年「十王鶺鴒舞」の指導を通して～

日立市立十王中学校

## 1 はじめに

本校の総合的な学習の時間の取り組みでは、第1学年において「地域との出会い」、第2学年において「地域と共に」、第3学年において「十王から未来へ」というテーマで、3年間を通して系統的に指導ができるような計画となっている。

その中でも、本校の特色ある取り組みとして、第2学年での、「十王鶺鴒舞」の学習があげられる。この「十王鶺鴒舞」の学習では、「100年続く伝統に」という「十王鶺鴒舞」への想いを引き継ぐこと、「ふるさと十王を若さと芸能で表現する」ことを目指し活動している。

この「十王鶺鴒舞」の学習では、毎年、先輩が後輩へ踊り方を教え、引き継いでいる。また、「十王鶺鴒舞」の完成に向け、民族歌舞団『荒馬座』の指導も受けている。生徒たちは、「十王鶺鴒舞」の踊り方や想いなど、様々な人からの指導を通し、毎時間、自分たちの取り組みを振り返り、伝統を引き継ぐために、自ら考え、主体的に活動に励んでいる。

生徒の主体的な探求を深める学びを目指した、本校独自の特色ある、「十王鶺鴒舞」の学習の披露の場として、今年度は、体育祭、ひたち秋祭り、PTA 関東ブロック研究茨城大会、十王地区運動会において発表を行った。その実践は下記の通りである。

## 2 指導案

### (1) 単元名 「十王鶺鴒舞」

- (2) 目標
- ① 上級生から引き継いだ鶺鴒舞を、自分たちの鶺鴒舞にするための意識を高めたり、技能を高めたりするための練習に取り組んだりすることができる。  
(課題発見能力)
  - ② 自分の役割を理解し、その役割を果たすことで、集団の中で自分のあり方を学ぶことができる。また、校外での発表の機会を通して、さまざまな立場の方々との出会いを通してコミュニケーション能力を高めることができる。  
(表現力)
  - ③ 踊り手やお囃子の役割の中で、自分に合った役割を考え、意思表示することができる。また、係の仕事に積極的に取り組むことができる。  
(意思決定能力)

### (3) 単元設定に当たって

「十王鶺鴒舞」は、平成16年度に十王町が日立市と合併したことを機に、日立市科学文化情報財団の「ひたち伝統芸能育成事業」の一つとして誕生したものである。踊り・お囃子・衣装・小道具と、踊りに関するすべてを生徒が創造し、「ふるさと十王を若さと芸能で表現する」という、オリジナルの踊りができあがった。

この「十王鶺鴒舞」を、毎年、先輩から後輩へ、鶺鴒捕り(男子)と海鶺鴒(女子)の踊り方を教え、引き継ぐということを行ってきている。生徒たちは毎年、基本的な踊りと、「100年続く伝統に」という鶺鴒舞の想いを引き継ぐことのために懸命に活動している。

「十王鶺鴒舞」の指導を通して、地域の伝統・文化に愛着をもつと同時に、よりよい踊りを創造するために主体的に考え実践する姿勢を育んでいきたい。

(4) 指導と評価の計画 (30 時間扱い)

時数	主な学習課題	評 価 の 規 準		
		課題発見能力	表現力	意思決定能力
1~2	全体ガイダンス (学習予定) 先輩方の想いを聞く	活動の見通しを立てることができる		
3~13	“体育祭”に向けて 係分担・仕事の確認 荒馬座の指導・役割別練習 班別練習 全体練習	課題をもって、練習や活動に取り組むことができる	踊りの動きで、故郷への想いを表すことができる	係分担や役割決定に向けて、積極的な意思表示ができる
14~20	“ひたち秋祭り”に向けて 踊りの隊形の確認 役割別練習 全体練習			
21~25	“PTA 関東ブロック研究大会”に向けて 踊りの隊形の確認 クラス別練習 全体練習	踊りによって伝えたいものを考えることができる	歌詞に込められた想いを伝えることができる	
26~29	“十王地区運動会”に向けて 踊りの流れの確認 全体練習			
30	活動のまとめをする 後輩へ伝えたいこと書く		自分の想いを伝えることができる	

(5) 本時の展開 (本時は第 18 時)

◎「表現力」を高めるために手立て・工夫

学習活動・内容	生徒への支援・評価	個への手立て
1 本時の学習課題を確認する。  踊りを通して伝えたいことを考え、お囃子との一体感をもって踊ろう。	・十王と各グループのリーダーを中心に、本時の課題を確認する。	
2 十王鶉鳥舞の歌を歌う。 ・歌詞をはっきりと歌う。 ・一人一人が発声をしっかりとする。	◎歌詞に込められた、ふるさとへの想いを考えて歌うように助言する。  歌詞をはっきりと、大きな声で歌うことができる。  (観察)	・声の出ていない生徒は、口の動きをはっきりさせるように助言する。
3 1 番の踊り・2 番の踊り・3 番の踊り・移動の踊り・スペシャルの踊りを踊り、動きを確認する。 ・道具の扱い方を確認する。 ・動きを確認する。 ・お囃子に合わせる意識をもつ。	・動きのポイントを意識しながら踊れるようにする。 ◎動作で表現しようとしていることを考えながら、踊るようにする。  荒馬座の方から指導された踊り方ができる。(観察)	・動きの小さくなりが必要な生徒には、個別に指導し、見ている人に、伝えようとする「想い」をもちながら踊ることの大切さを助言する。

<p>4 ひたち秋祭りバージョンの踊りを通して踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・踊り出し、動き出しをきちんとする。</li> <li>・「決め」のポーズをきちんとする。</li> </ul> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>◎移動する場合、見せる場合の動きを意識し、お囃子とも調和した群舞ができるようにする。</p> <p>場所の使い方や一連の流れに沿って、踊りを通すことができる。 (観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに出来具合を反省し、発表までの見直しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命のあまり、調和を意識できない生徒には、周りを見ながら踊るよう、意識させる。</li> </ul>
--	---	--

### 3 資料

#### (1) 先輩から後輩への引き継ぎ



#### (2) 荒馬座による指導



#### (3) 体育祭での発表



#### 〈生徒の感想〉※ 一部抜粋

- ・初めての披露で緊張したが、先輩方や荒馬座の方に教えていただいたことを披露することができて嬉しかった。
- ・初めて大勢の人が見ている前で踊ったので緊張して練習のようのがいかなかった。次までに改善したい。
- ・今日うまくいかなかったところをこれから工夫して練習して、次の発表ではもっといい踊りをしたい。

(4) ひたち秋祭りでの発表



〈生徒の感想〉※ 一部抜粋

- ・移動の仕方や踊り方など、体育祭のときと違ったことがたくさんあって難しかったけど、工夫して踊ることができた。
- ・人が多くて緊張した。十王の伝統をたくさんの人に伝えることができたと思う。
- ・体育祭での反省を生かして踊ることができてよかった。

(5) PTA 関東ブロック研究茨城大会での発表



〈生徒の感想〉※ 一部抜粋

- ・ステージが小さくて踊るのが難しかったけど、これまでの経験を生かして、よい発表ができたと思う。
- ・体育祭や秋祭りとは違う新たな鶺鴒舞を披露することができたと思う。
- ・全員で一斉に踊ることはできなかったが全員で工夫して取り組むことができた。

4 成果と課題

(1) 成果

① 活動の振り返り（アンケート結果） ※1クラス（35人）抜粋，3段階自己評価

Q1 「十王鶺鴒舞」の学習に意欲的に取り組むことができましたか。

できた：30人（85.7%） まあまあ：4人（11.4%） できなかった：1人（2.9%）

Q2 「十王鶺鴒舞」の学習に主体的に取り組むことができましたか。

できた：31人（88.6%） まあまあ：4人（11.4%） できなかった：0人（0%）

Q3 「十王鶺鴒舞」の伝統をしっかりと受け継ぐことができましたか。

できた：32人（91.4%） まあまあ：3人（8.6%） できなかった：0人（0%）

② 活動全体の振り返り（生徒の感想） ※一部抜粋

- ・最初は人前で踊るのが恥ずかしくて嫌だったけど、先輩たちの想いを知り、最後は自分たちなりに工夫して踊ることができた。
- ・工夫して自分たちなりの鶺鴒舞を完成させることができた。11年分の先輩の想いをしっかりと引き継ぐことができてよかった。
- ・最初はうまく踊れなく、練習も辛かったけど、自分たちの鶺鴒舞を発表することができてとてもいい経験になった。

(2) 課題

ハード面での課題として、毎年使用する、道具や衣装の補修に大変な労力が伴うことがあげられる。補修が必要な年の学年職員の負担はかなり大きいものがある。

ソフト面での課題としては、「十王鶺鴒舞」は、踊りやお囃子など高度な技術を必要とするため、実技指導が難しく、さらに、総合的な学習の時間内だけの指導が難しいなど、指導時数や指導者の確保があげられる。

これらの課題を解決し、「十王鶺鴒舞」を継承していくために、全職員の協力はもとより、保護者や卒業生など地域とのさらなる連携が望まれる。